

籾水分情報 Vol.12

令和6年9月20日
農業技術研究センター

高温の影響により、例年より出穂が早まりました。気象庁は今後も高温になると予報しており、登熟は早く進み、収穫期の前進が予想されます。高温時には玄米の成熟よりも帯緑色籾の減少が遅れることがあるため、刈り遅れないよう籾水分を確認し、25%になったら収穫を開始しましょう。また、高温時には籾水分のばらつきが大きくなるため、平均値だけではなく、その分布も刈取適期判定に重要です。そこで当センター玉井試験場内水稻ほ場の籾水分状況を調査し、原則として、毎週火、金曜日に公表しています。

ほ場の観察や籾水分の確認と併せて本情報を活用いただき、適期の刈取りを行い高品質米を生産しましょう。

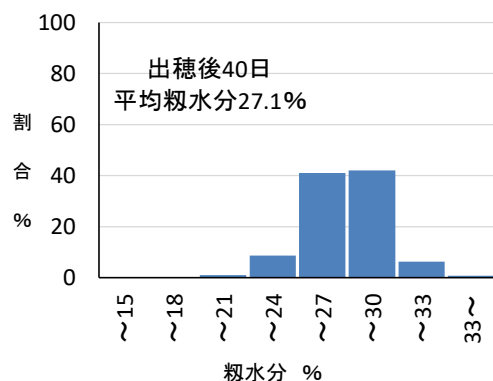
【*次回の提供は9月25日（水）の予定です。】

9月19日現在の状況

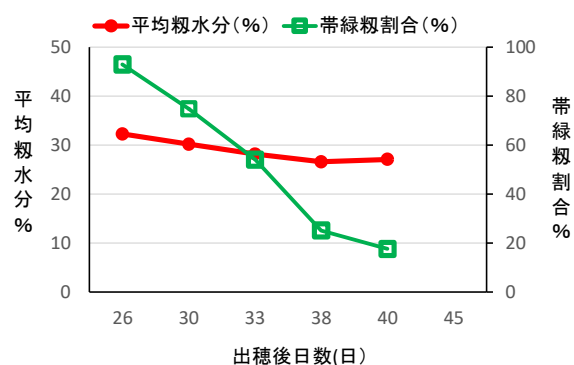
◎ 5月21日植「彩のかがやき」

(出穂期：8月10日、出穂後40日、出穂～測定前日までの積算気温1122℃)

- 籾水分の平均値は27.1%です。前回よりわずかに増加していますが、前夜と当日朝の降雨の影響と思われます。帯緑籾割合は17.7%、出穂～測定前日までの積算気温は1122℃と収穫適期の目安の晩限頃となっています。玄米は、写真のように活青米がほとんど見られず、死青米が混在している一方、茶米の発生が見られており、既に刈遅れの状態となっています。速やかに収穫作業を行いましょう。週末以降、秋雨前線の影響により雨天が予報されています。降雨後は、籾や茎葉が乾いてから収穫作業を実施し、倒伏や登熟ムラの大きい箇所は刈り分けを行いましょう。



○籾水分の分布



○平均籾水分、帯緑籾割合の推移

* (参考) 早植栽培「彩のかがやき」の収穫適期の目安

登熟積算気温 910~1110℃、帯緑籾割合 穂の下部、3割程度に青みが残っている頃

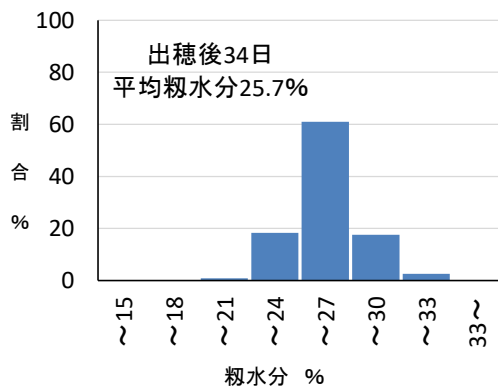


○5月21日植「彩のかがやき」、出穂後40日（9月19日）の玄米（篩目1.8mm）

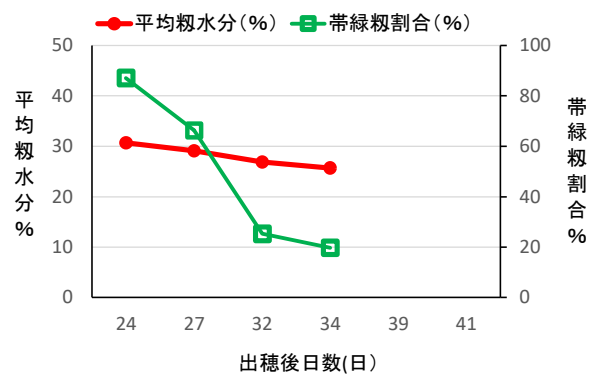
◎ 6月25日植「彩のきずな」

（出穂期：8月16日、出穂後34日、出穂～測定前日までの積算気温939℃）

- ・ 籾水分の平均値は25.7%です。前夜と当日朝の降雨の影響から低下は緩慢ですが、単粒の籾水分は27%を上回るものが前回から半減し2割程度にまで減少しています。帯緑籾割合は19.8%、出穂～測定前日までの積算気温は939℃と収穫適期の目安に達しています。写真のように玄米の登熟は進んでおり、収穫開始期となりました。秋雨前線の影響を受ける期間に入り、週末以降、雨天が予報されています。降雨後は、籾や茎葉が乾いてから収穫作業を実施し、倒伏や登熟ムラの大きい箇所は刈り分けを行いましょう。



○籾水分の分布



○平均籾水分、帯緑籾割合の推移

*（参考）普通期栽培「彩のきずな」の収穫適期の目安
登熟積算気温900～1100℃、帯緑籾割合30～10%



○6月25日植「彩のきずな」、出穂後34日（9月19日）の玄米（篩目1.8mm）

* 単粒水分の測定方法：午前10時30分頃、中庸な1株からサンプリングした約10本分の穂を脱粒し、2.1mm目の篩により不稔粒を除いた粒を単粒水分計により測定（2反復）